

関係各位

高知県病害虫防除所長

令和3年度病害虫発生予察技術情報（第7号）

県内におけるトビイロウンカの発生状況について

8月中・下旬に行った巡回調査において、中央部、中西部の普通期稲でトビイロウンカの発生が確認されました。いずれも発生程度は低いものの、中西部では発生面積が平年の約3.6倍と多くなっています（表1）。

また、7月の県内早期稲における発生面積は平年の約8.8倍であった（令和3年度病害虫発生予察技術情報（第6号））ことや、日本植物防疫協会によるウンカ飛来予測システムの飛来予測（表2）から判断して、6月から7月にかけて県内に断続的に飛来した可能性があります。

向こう1か月の気象予報では晴れの日が多く、気温は平年並と予想されており、本虫の増殖に好適な条件が続くことから、発生は増加すると考えられます。本虫が高密度となると坪枯れ被害を生じるため、県内の普通期稲栽培地域においてはトビイロウンカの発生動向に十分注意するとともに、下記の防除対策について指導の徹底をお願いします。

記

「防除対策」

- 1) トビイロウンカはほ場内で局所的に発生するため、ほ場全体の見回りを徹底してください。また、成虫、幼虫ともに株元に寄生するため、株元を注意して観察してください。
- 2) 薬剤防除に当たっては、株元まで薬剤が到達するように散布してください。また、農薬使用基準の遵守及び周辺農作物等への飛散防止対策の徹底をお願いします。

表1 普通期稲におけるトビイロウンカの発生面積

	本年発生面積 (ha)	平年発生面積 (ha)	作付面積 (ha)
東 部	0	3.5	395
中央部	33.3	42.5	1,247
中西部	184.1	51.0	2,381
西 部	0	43.1	917
県合計	217.4	140.1	4,940

注) 調査は8月中・下旬に行った。

表2 ウンカ飛来予測システムによる飛来予測日

月	飛来予測日
6月	3・4日
7月	1・2・3・8・9・10日

注) 日本植物防疫協会による予測結果。予測日は観測された気象データを用いて解析した大気の状態からウンカの飛来を計算した結果を示す。